

令和 4 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立天下茶屋小学校

令和 5 年 3 月

大阪市立天下茶屋小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

2年間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの活動について制限があった。今後も、そのような状況が続くと考えられる。子ども達の安全面を最優先に考え工夫しながら取り組みたい。

(学力)

学力向上に関しては予算を活用し、できる限り多くの時間にサポーターを配置し、一人一台の端末を活用した自主学習や家庭学習を進めた。また一昨年度同様「パワーアップタイム」も継続して行ってきた。2年ぶりの全国学力調査や昨年度から始まったすぐすぐウォッチなどの結果からも、学力の基礎基本が少しずつではあるが定着してきている。さらには全学年共通のテーマで研究授業、教育センターや市教委からの講師を招いた研究協議を重ね、児童自身が「わかる」楽しさや、自らの課題を見つけ、意欲的に解決する姿勢を育成することもできた。今後は教員の相互授業参観の機会を増やし、特に若手の授業力向上を図りたい。

コロナ禍で図書館ボランティアの活動に制限はあったが、図書支援員との連携や図書委員会の活動により、図書室の更なる整備と充実を図り、可能な限り児童が読書への興味関心をもつ取り組みや工夫を行ってきた。今後もコロナ感染対策をしながら、読書活動を推進して行いたい。また今年度から高校の授業に「情報」が入り、現在の小学生にとっては大学の入試科目になる。早い時期からのプログラミング教育は必要になるので、今後は低学年からでも進められるように準備していきたい。

(健康・体力)

コロナ禍において、子どもたちの体力低下が心配されていたが、全国体力調査の結果では、20メートルシャトルランなど持久力の数値が低く結果として現れた。コロナ感染拡大により、どうなるか状況が読めない現状ではあるが可能なかぎり取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みから、手洗いの励行、毎日の健康状態の管理等を通して健康の保持増進に積極的に努めた。ただ食育などではコロナ禍においては前向き黙食など取り組みが難しい状況であり、今後指導の在り方も検討していく必要がある。

(規範意識・自尊感情)

いじめや不登校など生活指導における情報交換を教職員間で定期的に実施することに加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、各家庭との連携を図るなど、問題の解決に努めた。不登校児童が減少しない問題は残るものとの他の生活指導における問題は解決できている。学校生活における基本「時を守り、場を清め、礼を正す」では、「時間を守る」「校内をきれいにする」ことの重要性を朝会の場や学校だよりを通して訴え、児童の自発的な行動を目指した取り組みも行った。今後は児童会活動において学期ごとの「あいさつ週間」を設定し自ら進んで「あいさつ」することの大切さに気付かせることで、思いやる心や感動する心、互いに違いを認め合える、豊かな情操の育成に努めていきたい。

(安全教育)

特に、今年度は児童の安全を最優先に取り組んだ。コロナ禍で日程調整が難しかったが、地震・津波や火災に対する避難訓練、集団下校や保護者への引き渡し訓練、教員による不審者対応訓練を実施した。さらに関係諸機関とも連携し、非行防止教室や交通安全教室も実施した。PTAが中心の通学路プロジェクトで危険地点の再確認や子ども 110 番の所在を知らせる取り組みを行った。コロナ状況により難しいことも予想されるが、地域との連携も模索していきたい。

学校では、予想されるSociety5.0といわれる社会に順応できるように、ICT機器の導入やネットワーク切り替えなどICT教育環境の整備が急速に進んでいく。子どもたちが誰一人取り残されないような取り組みを推進していく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことがありますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがありますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度までに全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を0.95以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度3学期における校内アンケートで「学習は楽しい」と答える児童の割合を全体の90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度末の運動におけるアンケートで、なわとびタイムの時間になわとびをしっかり取り組んだという児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において学習用端末を毎日使用した学校の割合を100%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和4年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 令和4年度3学期における校内アンケートで「あいさつが、しっかりできている」と答える児童の割合を全体の90%以上にする。
- 令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 令和4年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を前年度より減少させる。前年度(R3:0名)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- 令和4年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を40%以上にする。
- 令和4年度の小学校学力経年調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。

	H29	H30	H31	R2	R3
3年生	68.1	92.8	99.1	94.0	99.7
4年生	91.1	94.8	89.4	103.3	93.6
5年生	100.0	96.3	93.9	95.0	100.1
6年生	86.4	96.4	96.3	95.9	94.7

- 令和4年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。

	3年生	4年生	5年生	6年生
平成31年度	26.4	44.6	25.0	27.3
令和2年度	41.9	9.7	21.6	15.8
令和3年度	12.5	34.4	14.3	23.6

- 令和4年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。

	3年生	4年生	5年生	6年生
平成31年度	32.4	0	9.1	15.9
令和2年度	19.4	32.3	3.9	10.5
令和3年度	21.9	9.4	25.7	7.3

○令和4年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。前年度(R3年度:71%)

○令和4年度の 全国体力・運動能力、運動習慣調査 において、全ての項目について令和3年度の結果を維持する。

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20M シャトル	50M 走	立ち幅跳び	ソフト投げ	体力合計点
R3男子	16.61	17.88	28.88	34.35	27.71	9.53	149.22	20.94	48.31
R3 女子	16.29	13.63	36.31	33.19	20.88	10.05	129.69	10.65	46.38

○令和4年度末の運動におけるアンケートで、なわとびカードの目標や自分の目標を達成できたと答える児童の割合が80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
○令和4年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。前年度(R3:81.8%)
○令和4年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

○「ゆとりの日」NO会議デーを月1回設定する。
○定時(17:00)セットの日を学期に1回設定する。
○令和4年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を前年度以上にする。
前年度(R3: 85%)

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度も昨年度同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以前活動について制限があつた。少しづつ緩和されてはいるが、子ども達の安全面を最優先に考え工夫しながら取り組んだ。

学力向上に関しては、今年度から STEAM 教育を推進した。理科教育特に「実験」「観察」の充実に努め、積極的な理科室の利用、学習園の活用、タブレット等の ICT 機器の活用を進めた。さらに理科補助員を配置し実験や観察のサポートを依頼し、また外部から講師を派遣し特別授業を行った。今年度から高校の授業に「情報」が入り、現在の小学生にとっては大学の入試科目になる。早い時期からのプログラミング教育は必要になるので、今後も低学年からでも進められるように準備していきたい。また言語力向上の取り組みも引き続き、読書活動を推進してきた。コロナ禍で図書館ボランティアの活動に制限はあったが、学校司書による読み聞かせ等の取り組み、保護者ボランティアによる図書館開放や図書委員会の活動により、図書室の更なる整備と充実を図り、可能な限り児童が読書への興味関心をもつ取り組みや工夫を行ってきた。さらに区のジャガピースクール、英語コミュニケーション、読書活動推進事業などとの連携を推進した。今後はタブレットを活用した家庭学習、宿題、オンライン授業での活用を進めていきたい。

教員の授業力向上に関しては「学力向上支援チーム」のスクールアドバイザーによる全教員の研究授業および研究協議の指導・助言を依頼した。また研究教科を昨年に続き「道徳科」にし、児童自身がわかる楽しさや、自らの課題を見つけ、意欲的に解決する姿勢を育成することもできた。今後も相互授業参観の機会を増やし、特に若手の授業力向上を図りたい。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みから、手洗いの励行、毎日の健康状態の管理等を通して健康の保持増進に積極的に努めた。ただ運動場などではマスクの着用はしなくてもよくなったり、給食では大声以外の会話は可能になつたりと少しづつ緩和されてきた。歯磨き指導も復活することができた。依然子どもたちの体力低下が心配されているが、今年度は縄跳び週間を1・3学期の2回に増やし、2学期にはかけあし週間でインターバル走を取り入れた。

学校生活における基本「時を守り、場を清め、礼を正す」では、「時間を守る」「校内をきれいにする」ことの重要性を朝会の場や学校だよりを通して訴え、児童の自発的な行動を目指した取り組みも行った。また児童会活動では「あいさつ週間」を設定し自ら進んで「あいさつ」することの大切さに気付かせることで、思いやる心や感動する心、互いに違いを認め合える、豊かな情操の育成に努めた。

いじめや不登校など生活指導における情報交換を教職員間で定期的に実施することに加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、各家庭との連携を図るなど、問題の解決に努めた。不登校児童は少なからずおり、改善はしていないという問題は残るものとの他の生活指導における問題は解決できている。特に、今年度は児童の安全を最優先に取り組んだ。毎日の通学路の見守り活動、巡回は昨年度に引き続き行い、地震・津波や火災に対する避難訓練、集団下校や保護者への引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施した。さらに関係諸機関とも連携し、非行防止教室や交通安全教室も実施した。PTA が中心の通学路プロジェクトで危険地点の再確認や子ども 110 番の所在を知らせる取り組みを行った。

働き方改革が叫ばれて久しくなるが、教員不足の現状もあり少しづつではあるが改善してきた。本校でも時間外勤務時間の短縮の取り組みを行った。電話新設に伴い音声ガイドで 18:00 から 8:00 までの留守番対応、「ゆとりの日」NO 会議デーの設定、18:00 セットの日の設定を行った。

今後も学校では、予想されるSociety5.0といわれる社会に順応できるように、ICT機器の導入やネットワーク切り替えなどICT教育環境の整備が急速に進んでいく。子どもたちが誰一人取り残されないような取り組みを推進していく必要がある。そのために本年度の教育活動を、本自己評価を踏まえ、次年度の教育改善へつなげていく。

大阪市立天下茶屋小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・中学校) ○令和4年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○令和4年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○令和4年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	
学校の年度目標 ○令和4年度3学期における校内アンケートで、「あいさつがしっかりできている」と答える児童の割合を全体の90%以上にする。 ○令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○令和4年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。前年度(R3年度:0名)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 1 いじめや問題行動の未然防止に努めるとともに、早期発見・指導・解決に学校全体で取り組む。 2 基本的な生活態度の育成に努め、規律と秩序のある教育環境の実現に取り組む。 3 防災・減災教育および安全教育の充実に努め、避難訓練、防災訓練等の実施により災害時等の避難行動の定期的確認に努める。	
指標 1 こども生活まなびサポーターと連携し、スクリーニングシートを作成するとともに、6月と12月に「いじめについてのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期解決につとめる。また、いじめ・不登校・虐待など生活指導上の問題について、毎月の「スクリーニング会議Ⅰ」で、情報を共有し、共通理解を図る。 2 学期に1回、あいさつ週間を設定し、あいさつ運動を行う。 4月、9月、1月の生活目標を「登下校の時刻を守る」に設定し、遅刻防止活動に全教職員で共通理解し、家庭との連携を図る。隔週1回異学年での集会を行い、異学年交流の機会を設ける。 3 地震(津波)、火災、台風および不審者の侵入に対する避難訓練を実施し、災害時の避難行動の定期的確認に努める。 自転車の乗り方について安全教育を実施し、交通安全にとりくむ。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

指標

- 1 こども生活まなびサポーターと連携し、スクリーニングシートを作成した。6月に「いじめについてのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期解決につとめた。12月にも実施予定。毎月の「スクリーニング会議Ⅰ」については、数値や変容においても詳細に共有し、共通理解を図った。
- 2 1学期は7月にあいさつ運動を行った。2学期は11月に、3学期は2月にあいさつ運動を行う予定である。9月の生活目標を「登下校の時刻を守る」に設定したが、守れない児童もいた。児童集会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、放送集会等取り入れながら、隔週で行っている。
- 3 各災害時の避難訓練は、すべて行うことができた。交通安全指導も11月に実施する予定である。年度末までに期間があるので、3学期にも避難訓練を行い避難行動の確認を行いたい。

次年度への改善点

- 1 こども生活まなびサポーターと連携し、スクリーニングシートを作成した。6月と12月に「いじめについてのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期解決につとめた。毎月の「スクリーニング会議Ⅰ」については、数値や変容においても詳細に共有し、共通理解を図った。また、生活指導上の問題について、教職員全体で関わっていくという意思のもと解決に取り組んでいくことができた。SCやSSWの活用も積極的に行うことができた。

(改善点)

スクリーニングシートの活用が十分にできていなかったので、毎月のスクリーニング会議Ⅰでも活用し、毎月の変容がわかるようにしていく。

- 2 学期に1度、あいさつ週間を実施することで、自分から挨拶をする児童の様子が多く見られた。9月に引き続き1月の生活目標を「登下校の時刻を守る」設定し、朝会などで呼びかけることでのんどの児童が登下校の時刻を守ることができた。児童集会は引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況により、放送集会を中心に行った。

(改善点)

来年度もあいさつ週間を引き続き行うことで自分からあいさつができる児童を育成していく。また、あいさつ週間だけでなく、担任が呼びかけたり、教職員は声をかけ続けたりすることであいさつができるようになる。また「登下校の時刻を守る」に関しては、守れない児童は決まってきているので、担任を中心に声かけや家庭との連携をしていく。児童集会は新型コロナウイルス感染症の様子を見て、形式を工夫しながら開催していくようにする。

- 3 地震・津波、火災、不審者侵入、台風の避難訓練及び家庭への引き渡し訓練を行った。また、自転車の乗り方や走行の仕方についての交通安全教育を行った。訓練を行う際には、内容に合わせて警察や区役所などに協力をお願いし、指導助言をいただきながら安全教育を進めた。

(改善点)

内容については継続して取り組みを進めていきたい。訓練を行う時期が学期によってばらつきがあったため、年間を通して計画的に計画実施していく。

取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 1 道徳年間指導計画に基づき、道徳の時間はもとより全教育活動を通じた道徳教育を行う。
- 2 一人一人を大切にする人権教育を推進するとともに、特別支援教育の充実を図る。
- 3 さまざまなものに触れ合い、個性や想像力、自分を表現する力をはぐくむ情操教育を推進する。
- 4 多文化共生教育の取り組みを推進する。

B

指標

- 1 令和4年度末の校内アンケートで「学校のきまりを守っていますか」という設問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。
- 2 平和について学び考える期間を設け、命の大切さを強く認識させる。特別支援教育について支援方法の工夫・充実に努め、教育委員会等と連携のもと児童理解研修を実施する。
- 3 豊かな情操を育むため、芸術にふれあう機会を設ける。地域の方を講師として迎え、我が国や地域の文化・伝統を学ぶ体験活動を実施する。・レザークラフト体験(R3年度:未実施)茶道体験(R3年度:実施)・七輪体験(R3年度:実施)
- 4 多文化共生教育を推進する取り組みとして「フレンドクラブ」を開催する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

指標

- 1 道徳の年間指導計画に基づいて各学年で学習を進めてきた。また、道徳科を研究教科として2年目の今年度、スクールアドバイザーの吉田典子先生に年間を通して道徳科研究授業の指導助言をいただき、教職員のスキルアップへと繋げる事ができた。
校内アンケート「学校のきまりを守っていますか」で肯定的回答の児童の割合は62.9%で、昨年度の68.8%より下回った。
- 2 人権教育の取り組みとして、平和学習「ピースてんがちやや」を実施した。戦争についてのビデオを視聴し、原爆の恐ろしさを知るきっかけとなった。また、ウクライナとロシアの戦争に目を向ける児童も見られ、感想を玄関に掲示した。特別支援協育では、インクルーシブ教育推進スタッフやソーシャルスクールワーカー(SSW)の訪問を活用した。特別支援学級在籍の児童だけでなく支援を要する児童の支援の工夫や充実に努めた。特別支援教育の全体研修は現在4回実施し、3月には特別支援学級在籍の支援計画や指導計画の1年間のまとめについて研修を行う予定になっており、教職員全体で特別支援学級在籍の児童について共通理解を行う。
- 3 今年度は6年生のレザークラフト体験と5年生の茶道体験を11月、1年生の昔あそび体験を1月に実施。どちらも講師先生として地域の方々に協力いただき貴重な体験活動となつた。
- 4 本校にも韓国・朝鮮にルーツを持つ児童以外にも外国籍の児童がここ数年増加している現状があり、フレンドクラブを通して多文化共生の育成に努めた。教職員の人権教育の意識を高めるための人権教育研修を実施することができた。

次年度への改善点

- 1 継続して取り組みを進めていきたい。
- 2 「ピースてんがちやや」の実施の仕方を検討する。
- 3 出前授業も活用しながらアイマスクや車椅子体験等も実施していきたい。
- 4 外国人教育の一環としてフレンドクラブ以外での外国にルーツを持つ児童へのサポートとアプローチに努めたい。

大阪市立天下茶屋小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																														
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】																															
全市共通目標(小・中学校)																															
<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を40%以上にする。 ○令和4年度の小学校学力経年調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 																															
学校の年度目標																															
<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。 																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年生</td> <td>68.1</td> <td>92.8</td> <td>99.1</td> <td>94.0</td> <td>99.7</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>91.1</td> <td>94.8</td> <td>89.4</td> <td>103.3</td> <td>93.6</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>100.0</td> <td>96.3</td> <td>93.9</td> <td>95.0</td> <td>100.1</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>86.4</td> <td>96.4</td> <td>96.3</td> <td>95.9</td> <td>94.7</td> </tr> </tbody> </table>			H29	H30	H31	R2	R3	3年生	68.1	92.8	99.1	94.0	99.7	4年生	91.1	94.8	89.4	103.3	93.6	5年生	100.0	96.3	93.9	95.0	100.1	6年生	86.4	96.4	96.3	95.9	94.7
	H29	H30	H31	R2	R3																										
3年生	68.1	92.8	99.1	94.0	99.7																										
4年生	91.1	94.8	89.4	103.3	93.6																										
5年生	100.0	96.3	93.9	95.0	100.1																										
6年生	86.4	96.4	96.3	95.9	94.7																										
<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。 																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年度</td> <td>26.4</td> <td>44.6</td> <td>25.0</td> <td>27.3</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>41.9</td> <td>9.7</td> <td>21.6</td> <td>15.8</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>12.5</td> <td>34.4</td> <td>14.3</td> <td>23.6</td> </tr> </tbody> </table>			3年生	4年生	5年生	6年生	平成31年度	26.4	44.6	25.0	27.3	令和2年度	41.9	9.7	21.6	15.8	令和3年度	12.5	34.4	14.3	23.6										
	3年生	4年生	5年生	6年生																											
平成31年度	26.4	44.6	25.0	27.3																											
令和2年度	41.9	9.7	21.6	15.8																											
令和3年度	12.5	34.4	14.3	23.6																											
<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。 																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年度</td> <td>32.4</td> <td>0</td> <td>9.1</td> <td>15.9</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>19.4</td> <td>32.3</td> <td>3.9</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>21.9</td> <td>9.4</td> <td>25.7</td> <td>7.3</td> </tr> </tbody> </table>			3年生	4年生	5年生	6年生	平成31年度	32.4	0	9.1	15.9	令和2年度	19.4	32.3	3.9	10.5	令和3年度	21.9	9.4	25.7	7.3										
	3年生	4年生	5年生	6年生																											
平成31年度	32.4	0	9.1	15.9																											
令和2年度	19.4	32.3	3.9	10.5																											
令和3年度	21.9	9.4	25.7	7.3																											
<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。前年度(R3年度:71%) 																															

A

○令和4年度の 全国体力・運動能力、運動習慣調査 において、全ての項目について令和3年度の結果を維持する。

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20M シャトル	50M 走	立ち幅跳び	ソフト投げ	体力合計点
男	16.61	17.88	28.88	34.35	27.71	9.53	149.22	20.94	48.31
女	16.29	13.63	36.31	33.19	20.88	10.05	129.69	10.65	46.38

○令和4年度末の運動におけるアンケートで、なわとびカードの目標や自分の目標を達成できたと答える児童の割合が80%以上にする。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】		
1 児童がそれぞれの目標に向けた学習に取り組む姿勢の定着を図る。 2 道徳科を中心に、他教科との結びつきを考え児童の発達段階に応じた適切な指導ができる授業実践を行う。 3 学びサポーター、特別支援サポーターと協働しながら、個に応じた指導を行う。 4 理科補助員と連携して、実験・観察の授業を増やす。		
指標		B
1 学力経年調査にむけて、自分自身が設定した目標(合格等)を達成するよう取り組ませ、結果について自己反省を促させる機会とする。 2 道徳科を研究教科として計画的に授業研究を進め、一人1回以上の公開授業に取り組む。同時に他の教科・領域についても研修を進め、教員の指導力向上に努める。 3 年度末に実施する「学校生活アンケート」の次の項目について、肯定的回答の割合を令和3年度の結果より向上させる。 ・「学習は楽しい」…67.1% ・「調べたり発表したりする学習は好きである」…54.1% ・「宿題や学習道具の忘れ物は、ほとんどない」…56.3% 4 学期に1回以上、理科室を利用する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
指標		
1 経年調査に向けて、過去の経年テストの傾向をふまえ、「ふり返りプリント」を実施し、40分のテストに慣れていくこと（時間配分・問題用紙と回答用紙の使い分け等）や自分の課題を知ることで、目標設定を行い、見通しを持って学習する事ができた。 朝の学習や「パワーアップタイム」の時間を活用し、学習プリントや学習端末に取り組み、基礎学力の定着を図る事ができた。		
2 道徳科を研究教科とし、今年度は全学年、スクールアドバイザーの吉田典子先生を招聘し、研究授業・研究討議会を実施する事ができた。 一人一授業に関しては、スクールアドバイザーの吉田典子先生と事前に日程を調整し、できるかぎり授業参観・実施後の導助言をいただく事ができた。		
他教科についても、ICT研修会、情報モラル研修会、外国語巡回訪問研修会（2月実施予定）、在日教育研修会を行い、教職員の指導力向上に努める事ができた。		
3 「学校生活アンケート」の結果は、「学習は楽しい」の項目は67.3%で、前年度の67.1%を上回った。「調べたり発表したりする学習は好きである」の項目は46.8%で、前		

年度の 54.1%を下回った。また、「宿題や学習道具の忘れ物は、ほとんどない」の項目は 50.2%で、前年度の 56.3%を下回った。しかし、アンケートの回答として、「はい」「いいえ」「どちらでもない」から「はい」と言い切れる児童の割合がどの項目も半数程度いることは、肯定的にとらえている児童が多かったと考えられる。

アンケート結果は前年度を下回るものもあったが、年間を通して、学びサポーター、特別支援サポーターと協働しながら、国語科や算数科を中心に、個に応じたきめ細やかな支援を実施できた。

- 4 6年の学習を中心に理科室での実験・観察の回数を増やすことができ、4～6年全て学期5回以上理科室での実験・観察活動を行うことができた。理科補助員と連携し、指導方法や実施方法を考え、工夫して授業を進めることができた。

次年度への改善点

- 1 パワーアップタイムの取り組み方について学年によりばらつきがある。現在は（月＝算数火＝国語 水＝英語 木＝算数 金＝英語）として実施しているが、来年度は研究教科との兼ね合いも考えより児童の課題に即した活用の仕方を模索し、年度始めに提案する。
- 2 継続して取り組みを進めていきたい。
- 3 次年度も、国語科や算数科を中心として、入り込みによる支援を行う体制をできる限り組んでいく。
- 4 次年度も理科補助員がいれば引き続き連携し実験や観察に取り組めるようにしたい。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- 1 全校で英語に触れ合う時間帯を設定し、低学年からの英語学習の取り組みを推進する。
- 2 蔵書管理充実に向けた環境整備を進めるとともに、保護者や地域と連携して本に親しむための催しを企画することにより、読書への興味関心を高める。

A

指標

- 1 「DREAM」などの教材から、毎月の「歌」や「お話」について全校一斉学習を行い、全学年で英語活動を実施する。
- 2 学校図書館補助員及び図書館ボランティアによる協働運営体制づくりを継続発展させるとともに、バーコードによる蔵書管理を充実させるための環境整備を行う。
 - ・授業時間以外での図書館の開館回数を35回以上にする。
 - ・図書委員会による積極的読書活動の起点となる活用を図り、児童ひとりあたり年間読書数の目標を20冊とする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 1 「DREAM」を活用し、児童達に低学年から英語に慣れ親しむことのできる環境を作っている。どの学年も英語に慣れ親しむことができるよう指導を行っている。
- 2 週一回学校司書が来校し、読み聞かせ活動や図書館開放を行っている。2学期以降は月二回PTAによる図書館ボランティアによる図書館開放を行っている。蔵書管理や蔵書構成の充実のために、学校司書による貸出可能図書や新書のバーコード登録化、蔵書のNDC順への整理を行った。図書委員会や図書館ボランティアによる授業時間以外での図書館の開館回数は、2月時点で44回である。図書委員会の活動では、毎週木曜日の昼休みの図書館開放と毎週金曜日の朝の紙芝居の読み聞かせ活動を行っている。読書週間では、図書委員会で読書カードを用いた読書活動を行った。年間読書数の目標である20冊が達成できた児童は99.1%であった。

次年度への改善点	
1 来年度も引き続き児童が英語に慣れ親しむことができる環境づくりに取り組む。	
2 次年度も引き続き学校司書と図書館ボランティアと連携した取り組みを継続する。	
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】	
1 発達段階に応じた睡眠に関する指導により健康への意識づくりを行う。	
2 手洗いの励行などの日常指導による感染症予防に努める。	
3 食育指導の充実につとめ、給食時間における「食」への興味関心を深める取り組みを行う。	
4 体力づくり、運動習慣の定着をめざし、「なわとび週間」を設定する。	
指標	A
1 令和4年度全国学力・学習状況調査における「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。(R3年度 80.3%)	
2 感染症予防について、1・2年生で特別活動、3年生以上で感染症・手洗いに関する保健学習を実施し、進んで手洗いができるように指導すると共に、「保健だより」等により保護者への啓発を行う。	
3 ・6月に「食育週間」1月に「給食週間」を設定し、食育を推進する。 ・給食だより・栄養だよりの定期的な発行により保護者への啓発を行う。 ・交流給食を1回実施する。 ・給食時間に週2回以上、大型テレビで見ることができる教材を作成する。 ・令和4年度末の校内アンケートにおける「給食は、しっかり食べている」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を前年度より増加させる。(R3年度 67.5%)	
4 「なわとび週間」を実施し、年度末の運動アンケートにて、「なわとびタイムの時間になわとびをしっかり取り組んだ」という肯定的回答の割合を前年度より増加させる。(R3年度 95.0%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
1 令和4年度全国学力・学習状況調査における「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合が前年度より増加した。(R4年度 86.5%)。	
2 感染症予防について、3年生でからだの清潔について発育測定時に保健学習の単元を指導した。11月の測定では、1・2年生で泡の効果の実験3年生以上で手洗い実験を実施した。手洗いの習慣化がすすむよう長期休業中のはみがきカレンダーに手洗いのチェック項目を入れると共に「保健だより」等で啓発を行った。	
3 6月に「食育週間」を実施した。11月、2月に「もぐもぐ週間」、1月に「給食週間」を実施した。給食だより・栄養だよりの定期的な発行および学校ホームページでの毎日の給食に関する記事の掲載により、保護者への啓発を行っている。今後も継続して行う予定である。 好ききらい調べを月に1回実施し、「食」への興味・関心を深める活動を行っている。集計の結果は給食時間に委員会で放送を行い、また、結果をまとめたポスターを給食室前に掲示している。給食時間に週2回以上、大型テレビで見ることができる教材を作成している。令和4年度末の校内アンケートにおける「給食は、しっかり食べている」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合は63.9%で前年度の67.5%よりわずかに下回った。残食率が前年度よりも減少していることから、今後も児童が給食をしっかり食べができるように担任をはじめとした全教職員と協働していくたい。	
4 令和4年度運動アンケートにて、「なわとびタイムの時間になわとびをしっかり取り組んだ」という肯定的回答の割合が前年度より増加した。(R4年度 96.0%) 5・1月に「なわとび週間」を実施した。なわとびカードを工夫し、積極的に取り組め	

るようとした。しかし、なわとびカードの項目については、まだ改善の余地がある。また、前年度に引き続きなわとび週間後「なわとび大会」を実施した。

体力向上のために、12月に「かけあし週間」も実施した。

次年度への改善点

- 1 1年生から睡眠に関する指導を始めた学年が6年生になり成果につながってきている。
継続指導が望ましい。
- 2 コロナ対策の緩和にともない、感染予防行動もおろそかになってきているので、継続して実施できるよう啓発を続ける。
- 3 次年度も引き続き各取り組みを継続したい。
- 4 更なる体力向上のためにかけあし週間も年2回の実施を検討する。
マラソン大会等の新たな取り組みについても検討する

大阪市立天下茶屋小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】	
全市共通目標(小・中学校) <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。 ○令和4年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。前年度(R3:81.8%) ○令和4年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を70%以上にする。 学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ○「ゆとりの日」NO会議デーを月1回設定する。 ○定時(17:00)セットの日を学期に1回設定する。 ○令和4年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を前年度以上にする。前年度(R3: 85%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <ol style="list-style-type: none"> 1 メンターの活用により若手教員の育成をはかる。 2 派遣教育指導員の活用により、効果的な授業研究を伴う校内研修の充実をはかる。 	
指標 <ol style="list-style-type: none"> 1 若手教員に対して、指導法や児童・保護者対応について、研修に参加したメンターを中心とした意見・情報交換等を行う研修会を学期に1回開催する。 2 研究授業の際、外部指導者を招聘し、指導内容について、専門的見地からの指導助言により深く検証を行える効果的な校内研修を実施する。全教員による授業研究を実施し、研修成果についてまとめる。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
1 月に1回程度、メンター研修を行っている。スクールアドバイザーの吉田典子先生に参加していただくこともあり、指導法や保護者対応を中心に学級経営などについても研修会を行っている。	
2 年間を通してスクールアドバイザーの吉田典子先生に来ていただき、年6回の研究授業の際に指導助言を受けた。夏休みにも道徳科の研修を行い、指導力の向上に努めた。全教職員による研究授業も計画的に実施し、授業後には実践の成果や課題について吉田先生にも指導助言を受けた。	
次年度への改善点	
1. 次年度も引き続き定期的にメンター研修を行う。内容は、今年の内容に加えて、メンターのメンバーが知りたい内容も研修として行えるようにする。また、スクールアドバイザーの先生や他の教職員の方々にも参加していただく機会を作っていくみたい。	
2. 研究教科の専門性を高められるように、来年度も、外部講師を招聘し、校内研修を実施したり、指導助言を受けたりしていきたい。	
取組内容②【基本的な方向 6 教育DXの推進】	B
1 タブレットを活用した授業を推進するとともに、プログラミング教育の実践に努める。	
2 オンライン学習を計画的に実施する。	
指標	
1 ICT活用に努めるため、機器の使用方法や教材の工夫となる研修の実践を行い、学習に活用する。	
2 端末を活用して、1・2年生はコミュニケーションを中心とした学級活動や学習活動、3年生以上はオンライン学習を学期に1回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標	
1 学期に2回程度、校内でプログラミングやTeams、まなびのポータルなどの活用研修を実施して、様々な活動で使用できるように知識を高めることができた。コーディロッキー、スクラッチ、ビスケットなどを使いプログラミングを行っている学年も増えてきている。1人1台端末は各学年毎日使用し、端末調査が始まって以来、使用率100%を保つことができた。	
2 1年生も個々でスムーズにログインしタブレットドリルを行えるようになった。他学年では調べ学習で活用したり発表内容をパワーポイントにまとめたりしている。また、長期欠席になる児童への学習保障としてTeamsを繋いだ授業を家庭でも見られるように工夫に努めた。	
次年度への改善点	
1 プログラミング教育研修を早い時期に開催し、どの学級でも実践できるように、学習に取り入れられるように進めたい。また、研修も時期に見合った内容の研修を行えるように計画を立てていきたい。	
2 学期に一度のオンライン学習ができるように来年度の学校行事予定を調整していく。	